

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成29年度病害虫防除情報第5号

サトイモ疫病について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

県内でサトイモ疫病の初発生が確認されています。地域の発生状況を踏まえて、適切な防除を実施しましょう。

1 作物名 サトイモ

2 病害虫名 疫病

3 発生状況（経過）

1) 6月3半旬の巡回調査においてサトイモ疫病の発生はみられなかった。しかし、6月6半旬～7月1半旬にかけて、県内各地で初発生が確認されはじめたため、今後の発生動向に注意が必要である。

2) 平成28年産サトイモの巡回調査ほ場では、7月初旬に疫病の発生を確認後、急激に蔓延したことから、本年産についても今後の天候により急激な蔓延の可能性がある(図1、2)。

3) 向こう1か月の気象予報では、平均気温は平年並から高く、降水量は平年並みから少ない予報である。しかし、曇雨天が続くと発生に好適な条件となる可能性がある(鹿児島地方気象台6月30日発表1ヶ月予報)。

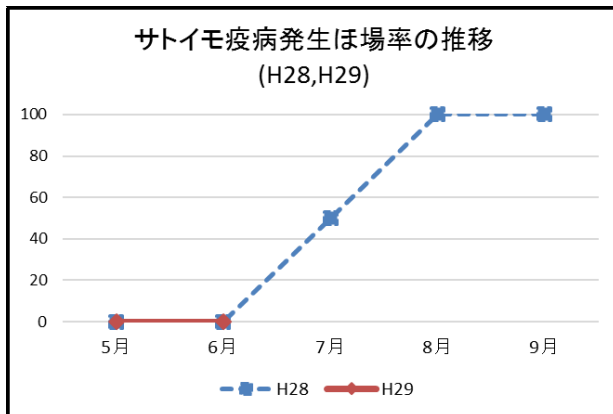


図1 巡回調査における発生ほ場率の推移 (H28, H29年中旬調査)

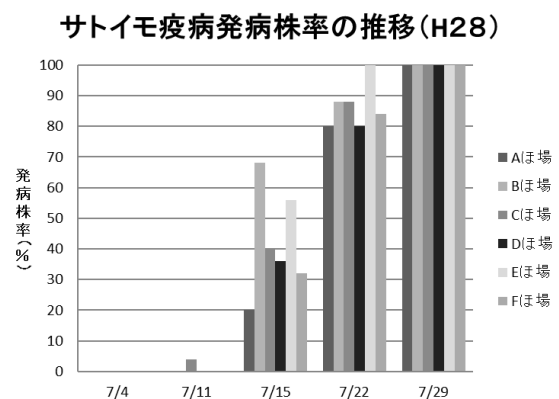


図2 巡回調査における発病株率の推移 (H28年7月調査)

4 本病の特徴

本病の病原菌である *Phytophthora colocasiae* は 10～35℃で生育するが、27～30℃で最も良く増殖することから、夏期に曇雨天日が続くと急激に蔓延する。葉や葉柄上の病斑(写真1、2)に形成した遊走子のうまたは遊走子が風雨により周囲へ飛散し、周辺で二次感染が起こる。

5 防除上の注意

1) 7月は、本病の感染に好適な時期である。地域の発生状況を踏まえて薬剤による防除を実施する（登録薬剤は表1を参照）。

(1) 未発生ほ場

発生の有無をこまめに確認し、ジーファイン水和剤による予防散布を中心に継続した防除を行う。隣接ほ場で発生が確認された場合はアミスター20フロアブルの散布を行う。

(2) 既発生ほ場

①早生品種の場合は、直ちにアミスター20フロアブルを7日間隔で2回散布する。その後は、天候に留意しながらジーファイン水和剤の定期散布を実施する。アミスター20フロアブルについては、使用回数が3回以内、使用時期が収穫14日前となっているので、使用にあたっては十分注意する。

②中生～晩生品種の場合は、直ちにアミスター20フロアブルを1回散布し、その後はジーファイン水和剤を継続して散布する。病斑の上位伸展が続く場合は、再度アミスター20フロアブルを散布する。

2) 薬剤散布に当たっては、必ず展着剤を加用し、株元まで十分量散布する（ジーファイン水和剤：150～500L/10a、アミスター20フロアブル：100～300L/10a）。

高温時の薬剤散布により、薬害を生じることが確認されているので、日中の気温が高い時間の散布はできるだけ避ける。

3) 防除法の詳細等については、「平成29年増補改訂版サトイモ疫病対策マニュアル」を参照（宮崎県農薬安全使用啓発ホームページ（<http://nouyaku-tekisei.pref.miyazaki.lg.jp/nouyaku/user/haishinfile/list/miyazaki>））。また、各地域の防除対策については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、JA、総合農業試験場病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会する。

表1 サトイモ疫病に対する登録農薬

薬剤名	希釈倍数	10a当たり 使用量	使用回数	使用時期
ジーファイン水和剤	1,000倍	150～500L	—	収穫前日まで
アミスター20フロアブル	2,000倍	100～300L	3回以内	収穫14日前まで



写真1 葉に形成された病斑



写真2 葉柄に形成された病斑

《連絡先》宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課
 (病害虫防除・肥料検査センター) 久野
 TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127
 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp